

| | | |
|--|-------------|-----|
| 科目名称： | 器楽Ⅱ | |
| 担当者名： | 朝倉 喜裕、水上 和子 | |
| 区分 | 授業形態 | 単位数 |
| 専門教育科目 | 演習 | 1 |
| 授業の目的・テーマ | | |
| <p>「器楽Ⅰ」で行った学習を継続し、練習を積み重ね、小グループごとにピアノと弾き歌いを2人の先生に移動して指導を受けます。レッスンは個々に受け、待機中も他の学生の指導を参考にして、自身が体感することで確実に基礎を理解し演奏、歌唱能力を伸ばします。保育者として基礎となる音楽の表現力を目指します。</p> | | |
| 授業の達成目標・到達目標 | | |
| <p>「夏休み課題」の確認から開始します。ピアノ演奏はグレードを進めながら徐々にグレードアップし、いろいろな音形、リズム、奏法を学び、ピアノに慣れ親しんでいきましょう。弾き歌いは「練習チェックシート」を活用しながらの積み立て練習を行い、歌うことを大切に。どちらもどのような曲であるか、何を伝える曲であるかを大切に、曲の持つイメージを感じ、膨らませながら、常に保育現場に繋げることを念頭に練習の積み重ねを図ります。</p> | | |

| 幼児教育学科 | ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | 重点項目 |
|--------|---|------|
| DP(1) | 建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。 | |
| DP(2) | 優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。 | ○ |
| DP(3) | 幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。 | |
| DP(4) | 学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。 | |

| 評価方法/ディプロマポリシー | 定期試験 | クイズ 小テスト | 提出課題 (レポート含む) | その他 | 合計 |
|----------------|------|-------------|------------------|-----|-----|
| 幼児教育DP(1) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP(2) | | 90 | 10 | | 100 |
| 幼児教育DP(3) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP(4) | | | | | 0 |
| | | | | | 100 |

| 実務経験のある教員の担当 | 担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載） | |
|--------------|--------------------------|---------|
| なし | 《内容1》 | 《経験年数1》 |
| | 《内容2》 | 《経験年数2》 |
| | 《内容3》 | 《経験年数3》 |
| | 《内容4》 | 《経験年数4》 |

| 評価ルーブリック | すばらしい | とてもよい | よい | 要努力 |
|----------|-------|-------|----|-----|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| 授業の内容・計画 | 事前事後学修の内容 | 事前事後学修時間(分) |
|---|--|-------------|
| 第1回 夏休み課題の確認 | 夏休み課題の練習と後期前半課題の予習 | 120分 |
| 第2回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン | 各自、指示されたピアノ曲、弾き歌いを練習する。片手、階名唱など基本を大事に。 | 60分 |
| 第3回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン | 各自がレッスンで指導を受けた復習と次の課題の基本練習を大事に練習する。 | 60分 |
| 第4回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン | 各自が指導された内容を復習し、次の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第5回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン及び習熟度のチェック | 各自が指導された内容を同じグループの学生と確認し合い互いの向上を図り、練習を継続する。 | 60分 |
| 第6回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン | 各楽曲の仕上がり具合を一つずつ確認し、苦手な楽曲を重点的に練習する。 | 60分 |
| 第7回 仕上がりチェック | 次回の発表のために全ての課題を満遍なく練習し仕上げを目指す。 | 120分 |
| 第8回 後期前半の発表(プレゼンテーション) | 前半発表に備え各課題をじっくりとマスターするよう仕上りの確認をして、補充期曲を練習も試みる。 | 120分 |
| 第9回 後期後半のグレードピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン。(書き込みチェック) | 各自、次のグレードのピアノ曲、後半の弾き歌いのコード書き込みと練習。 | 60分 |
| 第10回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン | 各自チェックされた内容及びレッスンでの指導を復習し、次の課題の基礎練習をする。 | 60分 |
| 第11回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン | 各自、指導された内容を復習し次の曲を練習する。 | 60分 |
| 第12回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン及び習熟度チェック | 各自指導された楽曲を他の学生と確認し合い練習積み重ねる。 | 60分 |
| 第13回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン | 後半発表に備え、全曲の仕上がりを確認し、苦手な曲を重点的に練習する。 | 60分 |
| 第14回 仕上りのチェック | 後半発表に備え全ての曲を満遍なく練習する。 | 120分 |
| 第15回 後期後半の発表(プレゼンテーション) | 課題をしっかりとマスターするよう練習し、補充曲にも取り組む。 | 120分 |
| 事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と準備学習を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。また、ピアノ演奏技能の習熟には、限らない努力が必要である。課題曲集プリント(ピアノ・弾き歌い)を基本に取り組み、片手、階名唱、歌唱のみの基礎練習を大事に練習に取り組んでもらいたい | | |
| 成績評価の方法・基準 | | |
| 定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 前半後半2回の発表で評価 前半習熟度チェック50% 後半習熟度チェック40% レポート10% | | |
| 課題に対するフィードバック | | |
| 習熟度確認シートを使用し、学生の習得度をフィードバックしている。 | | |
| 教科書・参考書 | | |
| ピアノ課題、弾き歌い課題冊子。幼児保育の歌とリズム(音楽之友社)。 パーナム ピアノテクニック導入書・ピアノテクニック1(全音楽譜出版社) | | |